

あくせす

Access

NO.295

2021年3月19日

九州旅客鉄道労働組合
大分地方本部

大分市大道町1丁目8番1号
097-543-2223

発行責任者 佐藤守洋
編集責任者 竹下功人



LINE@

JR九州労組公式アカウント

ID ... @yqw2478t



第27回定期地本委員会開催

委員長挨拶 (要旨)



大分地本
佐藤委員長

新型コロナウイルスの感染症が中国武漢で発生して1年が経過をしますが、JR各社では大変な状況になっておりJR九州でも会社発足以降危機的な状況が続いています。ワクチン接種が始まり、この危機的状況の突破口になるのは間違いありませんが、副作用による死亡も確認されており慎重な対応が求められると考えています。感染症との闘いはまだまだ続きますが、終息に向けて組合員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

・安全問題について
残念ながら労働災害は毎年発生しており、死亡事故も発生しています。過去の教訓が生かされていません。安全問題については引き続き強化する事とし、方針に従い具体的な行動を展開していきます。安全問題について皆さんも重要課題であることは理解されていると思いますが、実際に行動できているかという点も反省すべき点があります。今一度自分自身に問いかけて頂きたいと思えます。

・ダイヤ改正について
2021年のダイヤ改正及び下期効率化施策について、2月12日に集約を行いました。業務の見直しにより要員減が発生をします。関係職場においては、交渉経過の内容を理解して頂き実施後の問題点については地本で集約し改善を行っていきます。また大分運輸センターと大分車掌センターが統合します。統合にあたり問題解決にあたって来ましたが、スタート時の混乱は避けられないと思えます。問題点については地本で集約を行いますのでよろしくお願います。

・2021春闘の取り組みについて
本部の業務速報を見て頂いたと思いますが、第二回の団体交渉では、ベースアップの実施及び夏季手当の実施については事業の存続と雇用の維持の為に判断せざるを得ないとしており、第三回団体交渉においても諸手当、福利厚生面の改善についても現行通りとしたいとの考えが示されています。多くの組合員が春闘署名・激布等の取り組みについて不満があることは承知しております。格差は正の実現のために全組合員が結集して最後の最後まで粘り強く闘争を展開したいと考えております。

3月6日(土)全労災ソレイユにて第27回定期地本委員会を開催し、来賓として、中央本部より芦原書記長をお招きした。議長には大分運輸センター分会、高原委員が選出され、冒頭、佐藤委員長より安全問題・組織問題・2021春闘政策課題について挨拶を行った後、各議案の提起を行い、各分会を代表する委員から職場問題や春闘に対する要望等多くの発言がされ、執行部答弁の後満場一致で採択された。委員会の最後には、春闘勝利に向けた激布が佐藤委員長から芦原書記長へ贈呈された。

・C1級からC2級の昇格について



杵築工務センター
分会
原委員

＜執行部答弁＞
E級の資格試験を合格していないと昇格しないという事実は無い。C1からC2の昇格の人事考課の中で一つ目安となっているのがE級資格試験の合格になっているのではないかと考えているが、基本的には人事考課の中で判断されるものだと考えている。

・過去に車掌センターの指導要員が1減となったとき定例訓練の資料作成を一部運輸課の社員が負担することになっていた事について



車掌分会
浦川特別委員

＜執行部答弁＞
今回の乗務センター化では、掲示物の作成、安全に関する社員の声を融合化することで運輸センターの指導を1減とする根拠が示されています。過去車掌センターの指導が1減ときは、訓練資料の作成は運輸課が行うとのことでしたが、それが現在出来ていないということであれば正しい必要がある。

・駅で配布する時刻表について



中央駅連合分会
淵上委員

＜執行部答弁＞
会社的には時刻表はインターネットで見たいというはあると思うが、冊子で無いと困る方が居るというのも事実である。何故無くしたのか、配布する時刻表が必要な物ではないのかということになれば必要経費になる為、経営協等で訴えなければならぬと考えている。

・1.コロナ禍でのペア獲得について ・2.分会人数に対しての分会交付金について ・3.乗務センター化後の退勤点呼の取り扱いについて



運輸センター分会
小田原委員

＜執行部答弁＞
1.労働組合として要求は出来るかと判断している。この間に効率化施策等組合員は協力を行っているという認識である。これは労働条件向上の為に協力している以上しっかりと求めて行く考えである。

2.分会交付金として毎月5000円の均等給付と分会組合員一人につき400円の交付金としている。分科会の部分についてはこれから組織人員が減少していく中で運動が行いにくくなるのでは無いかと考えているため、この予算を分会交付金に回して行きたいと考えている。

3.一つの例として異常時に点呼を行う人が居ない場合便宜的な扱いで退勤点呼時に乗務することが出来ない乗務員を活用し、退勤点呼を行う場合がある。否認若しくは不参加が発生した場合責任は0とはならないとの会社回答があるが、退勤点呼の行い方、ダブルチェックの必要性などの教育は行っていくとのことである。

・災害発生線区持つ職場での社外新規運転士の養成について



運輸センター分会
斎藤委員

＜執行部答弁＞
災害時に社外の新規運転士の養成を請け負う事について、会社からも配慮が足りなかったと認めている。今後この様な事が無いように声を上げていく考えである。

令和2年7月豪雨により被災した久大本線の豊後森駅から湯布院駅が2020年3月1日約8カ月ぶりに全線で運転を再開しました。
博多駅と湯布院駅で出発式が行われた他、沿線の各駅ではさまざまなおもてなしが行われ、JR九州では初となるゆふいんの森1号でオンライン乗車も実施された。
久大本線と豊肥本線2つの線路が復旧し、これで大分地区すべての線路が繋つながら利便性の向上や観光客の増加に期待したい。

